

多摩地域における幕末維新期の情報網と社会情勢への関心 — 日記史料からみる —

永井 美咲

幕末維新期は「激動の時代」といわれる。当時の混迷する社会に対する人々の考え方を
知ること、政治の在り方に対する人々の見方を理解することは重要である。人々の考えを
知る上で当時の人々が残した日記史料は有効である。そこで本研究は、幕末維新期の混乱
する社会情勢について、武蔵国多摩地域の人々の情報源や入手方法、記述の有無やその表
現に視点を置き、多摩地域に残る複数の日記史料の記述内容を分析した。それによって当
時の多摩地域の人々の情報網や社会情勢への関心について理解する一助としたい。

多摩地域には、日記史料が多数確認されている。このうち多摩地域の日記 9 点と、多摩
地域の日記との情報差を比較する他地域の日記 2 点を研究対象とした。多摩の日記研究で
は、「公私日記」の研究などから村落生活や民衆意識が明らかにされている。また全国各地
に残る複数の日記から民衆の社会的事象への視点を考察する研究もある。しかし多摩地域
における人々の情報網やそこから見える社会情勢の関心についての考察は十分でない。

社会情勢への関心を明らかにするため、嘉永 6(1853)年以降の異国船来航、それに伴う江
戸の取締、生麦事件に関する内容、多摩地域近辺が戦場となった慶応 4(1868)年の戊辰戦争
のうち、甲州勝沼の戦い、上野戦争、飯能戦争に関する内容の、2 点に着目した。

多摩の日記から、多摩地域の人々は異国船来航について、自らの見聞によって異国船や
市中の様子、幕府の対応に関する情報を入手していたことが明らかとなった。また、江戸
の日記である「藤岡屋日記」と記述を比較すると、多摩地域の人々独自の情報も入手され
ていたようである。さらに多摩地域の人々は、甲州勝沼の戦いに関する情報を旧幕府側で
参戦した日野農兵から直接入手していた。また上野戦争や飯能戦争に関わった旧幕府勢力
が多摩地域に集まったことが日記から明らかとなった。さらに多摩の日記には、他地域の
日記には現れない「彰義隊」や「振武軍」という名前表記があること、上野戦争脱走兵を
「英雄」としていること、飯能戦争を幕府方の「勝利」と記述していることから、多摩地
域の人々による旧幕府側への期待が窺えた。

以上から、江戸時代を通じて幕府直轄領や旗本領が大部分を占めていた多摩地域の人々
は、幕末維新期の混乱する幕府政治や市中・周辺地域の治安に対して次第に関心を高め、
独自ルートでも情報を集めていたことが明らかとなった。また幕末維新期の戊辰戦争では、
多摩地域の人々の旧幕府領民としての意識が垣間見えた。さらに多摩地域は、徳川再興を
目指す旧幕府勢力が集まった地域であった。このことから多摩における戊辰戦争が終結
した後も多摩地域の人々は、旧幕府への親近感を抱き続けていたと思われる。

(指導教員 白井哲哉)